

## 便利さからの脱却

馬田, 俊雄  
九州大学応用力学研究所技術室

<https://hdl.handle.net/2324/1959218>

---

出版情報 : 九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート. 8, pp.167-168, 2007-03. Research  
Institute for Applied Mechanics, Kyushu University  
バージョン :  
権利関係 :

## 便利さからの脱却

九州大学応用力学研究所技術室 馬田 俊雄

工学部の使命は科学技術の発展を人々の役に立つ道具に応用して、生活を豊かにする事にある。長年の人類の歩みにより、数限りない便利な道具が出現した。特に近年、大学の工学部の基礎研究も大いに貢献したであろう様々な商品が、人々の生活に供されている。研究成果はエアコン、自家用車、携帯電話などにも幅広く応用され、快適で便利な暮らしが実現した。

と、思いがちである。本当に便利な時代になったのであろうか？ 筆者は便利さを履き違えていると思う。身の回りの電化製品や車は小型集積化が進み、個人が簡単に修理できない。壊れるとパニックにならざるを得ない。乗り物は便利であるが歩く事が少なくなり、個々の人間にとって最も重要な足腰を弱め、エアコンによって体温調整が自然にできない体になってしまう。過度の除菌は人間の持つ本来の抵抗力を低下させる。そして、携帯電話は過去を、人生を、社会を振り返る余裕（ゆとり）を奪っている。何もせず物思いにふけるのは決して無駄な時間ではない。そう考えると、近い将来に実現しそうなロボットと人間が共存する未来は光輝いているのであろうか？

動物は1日の大半を捕食の為に費やす。にも拘らず、鳩は1日に数回、定期的に集団飛行訓練をしている。大きなエネルギー消費である。敵から襲われない便利な住居を確保して、食事のとき以外は（楽をして）隠れていれば良さそうであるが、いざという時にダメな事を本能として知っているのであろう。

地球（誕生40～46億年前）が何十億年もかけて形作ってきた環境を近代の科学は高々200年程で激変させてしまった。最たるものの一つとして化石燃料がある。ジャングルの樹木にしろ、恐竜にしろ炭素Cを固体として生体内に閉じ込め、これらを石炭や原油として地球の内部に蓄えた。恐竜の絶滅は約6,500万年前の出来事とされており、人類の誕生は400万年前との説がある。狩猟から農耕中心に移行したのが1万年前で、エジプトや黄河などの文明の夜明けが約5,000年前（万は付いていない！）である。以降、人類（に限らず動植物）は種を絶やささないですむ（素晴らしい）地球環境を維持してきた。現代に生きる我々は近年（わずか200年）の荒廃を子孫にどう説明したら良いのであろうか？

自然界は火災や洪水が必須であるが、隕石の衝突などを別にすれば、その後には植物が育ってトータルとしてわずかな変化に留まる。ところが産業革命以降人間は、地球上に分散していた資源を特定の場所に集中させてしまった。地球環境悪化の主要な原因をCO<sub>2</sub>に負わせる気はないが、地下に眠っていた固体炭素を一気に気体CO<sub>2</sub>として地上に移動させているのは事実である。この事例に限らず、際限のない取り返しのきかない変化を加え続けるのは人間だけである。今、人間への警告が発せられている。

豊かな生活の実現を使命とする工学部の関係者、特に学者はこの悪しき進行を阻む先頭に位置すべきである。ところが、相変わらず便利と言う名の（地球環境において）不要な道具作りに没頭している。最先端の技術が素晴らしいと国を挙げて鼓舞し、競争原理を持ち込んでいる。更に開発すべき分野ともう不要な分野をじっくりと考える暇（余裕）を与えない。筆者はこれからは物の豊かさではなく、環境や心の豊かさ（が実現する道具作り）を基準として考えて行くべきだと考える。

米民主主義には失望が大きい。強いものが全てで、自己中心の大国主義もいただけない。アメリカの経済や教育を手本とする日本政府であってはいけないと思う。

夏場に電力が不足するのでどうするかではなく、電気（クーラー）を使用しない暮らしに改めれば良い。昔は、クーラーはなかったし、いまだに世界の住民の一部にはその存在さえ知らない人がいよう。絶対的な涼しさより、水浴びや木陰に入る相対的な快適さがあれば良いと思う。便利と言われる道具も知らなければ必需品ではない。一部の現代人は物による便利さばかりに目が向いて、周りの人々が何時も気を使ってくれて、困った時には面倒を見てくれ、互いに助け合って生きる本当の便利さを見失っている。

現代の物中心の便利さから脱却する思想が全ての人間に求められている。そして日本が、世界中がその後押しをする時代が到来しないと地球の未来はない。

（思う所は多く書き尽くせないが、徒然に 2007.1.31）

追記： 地球温暖化の原因が全て CO<sub>2</sub> によってもたらされているのかは異議を唱える人もいる。又、地球は百万年の単位で考えると寒冷化に向かっているし、海水に溶け込んだ CO<sub>2</sub> が、たまたま空気中に出ているとの説もある。将来予想されている CO<sub>2</sub> 濃度の上昇が地球の包容力で許容できる範囲であるのか無いのか、誰も知らない。しかし、海面上昇の恐れがあるとすれば、これを防ぐ手立ては特別に重要な課題であろう。その時になって後悔しても遅いので、今から地球的規模で対策を実施するべきかも知れない。海水の（人間にとって安全な場所への）移動は好ましい事ではない。しかしながら、現在の事態は緊急な対策が必要な可能性がある。

パイプライン敷設は油の輸送で分かる様に極寒のシベリアでも技術的には可能である。であれば、猛暑の砂漠地帯に海水を地球規模で輸送するのも技術的には可能なはずである。問題は経済的な儲けがない点である。しかし、考えてみると、地球の人類が救われると言う大きな儲けが存在している。これまで地球の共通財産を潰して富を蓄えてきた、先進国の責務であると考えられるが如何であろうか？ ただ、通常の輸送であればプールの水をスプーンですくう様な効果しか得られないのは分かっているつもりである。又、海水の大量移動に伴って砂漠（不毛地帯）の環境が一層悪化する恐れも十分に考えられる。が、何もしない（何も考えない）より少しはましであろう。